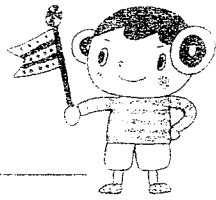


ゆりかご園だより

2019.5.7

1学期(4-5月)のねらい 新しい先生・友だちとなかよくなる



園内に新入園児の泣き声が聞かれなくなり、笑顔であそぶ姿を見ると、こちらも笑顔になります。長かったゴールデンウィークが終わりました。子どもたちはどんな顔を見せてくれるでしょうか。

さて、ある日3歳児クラスに顔をだすと、Hくんが泣いていました。そばでYくんが厳しい表情でHくんを見つめています。「どうしたの?」と二人に向かって聞くと、Y「だ、ブドウは紫なのにHくん黄緑って言うんだもん」H「だ、Hもブドウ好きなんだもん頭の中が?マークになった私。

この様子を周りで見ている子たちも、話に加わってきました。話を要約すると、♪どんな色が好きの歌に合わせて、色に困んだ好きなもの言うあそびをしていて、紫→ブドウをあげたYくと、黄緑→ブドウをあげたHくんの意見がかみ合わず、色が違うのにブドウを主張するHくに、Yくんが強めの口調で「違うよ!」と言ったため、Hくんが泣き出したようでした。

このようなもめごとはよくあります。大人が間に入って、お互いの主張をくじくことなく、両者の思いをそれぞれ相手に伝えます。

3歳児のこの時期は、友だちが泣くと「どうしたの?」と気にかける姿がみられます。「泣いている方がかわいそう」と思うのか、頭をなでたりティッシュで涙を拭いてあげることもあります。ところがそのあとは関心が薄れ、その場を去ったりあそびだすなど、解決をさほど重視しない。そんなことがよくあります。

ところが、この時の子どもたちは違いました。

Aちゃんは、泣いているHくに「どうしたの?」と声をかけ、言い分を聞くと「Hくんが〇〇って泣いてるよ。そうなの?」とYくんの顔を覗き込みます。

Dくんは「ねえY、Hに謝ったら? 謝ったらHくん嬉しい気持ちになると思うよ」と仲直りを促します。

私はこのもめごとに関心を寄せ、かかわる子どもたちに驚き、とても頼もしく思いました。そこへやって来た4歳児のHちゃんは「あ、それね、マスカットって言うブドウだよ」と冷静に一言。なるほど1歳違えば解決方法に幅が出るのだなめと感じ。

ちなみにこの二人は何のわだかまりもなく他のことに気が向きあそび出していました。今は、解決よりもしっかり思いをだすことが大事なのでしょうね。